2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社アシックス　　上場取引所　東
コード番号　　7936　　URL　https://corp.asics.com/jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長ＣＯＯ　　（氏名）富永　満之
問合せ先責任者　（役職名）経理部長　　（氏名）小林　尚　　（TEL）050-1744-3104

配当支払開始予定日　　ー
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け）

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	805,154	28.8	175,502	37.5	169,112	35.8	114,745	32.9
2025年12月期第３四半期	625,055	19.0	127,606	39.4	124,500	41.0	86,314	32.9

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　122,864百万円（65.8%）　2025年12月期第３四半期　74,084百万円（21.3%）
（参考情報）為替影響除く対前年同四半期増減率　売上高　19.2%　営業利益　28.2%

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	161.98	161.85
2025年12月期第３四半期	120.66	120.57

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	656,681	354,887	53.8
2025年12月期	586,480	273,355	46.3

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　353,187百万円　2025年12月期　271,517百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	ー	12.00	ー	16.00	28.00
2026年12月期	ー	20.00	ー		
2026年12月期（予想）				24.00	44.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,050,000	29.5	195,000	36.8	189,000	35.7	120,000	21.6	169.30

（注）直近に公表されている連結業績予想からの修正の有無：無
（参考情報）為替影響除く対前期増減率　売上高　22.6%　営業利益　30.0%

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
　　新規　－社　（社名）、除外　－社　（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
　　（注）詳細は、添付資料13ページ「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	709,482,236株	2025年12月期	734,482,236株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	4,753,302株	2025年12月期	25,846,871株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	708,412,320株	2025年12月期３Ｑ	715,353,243株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述などについてのご注意）

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、アシックスが現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成をアシックスとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料７ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

アシックスは、2026年11月13日（金）に機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け説明会を開催する予定です。この説明会で使用する決算補足説明資料については、開催同日にアシックスホームページ（https://corp.asics.com/jp/investor_relations/library/financial_summary）に掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 3
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 6
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 7
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 8
（１）四半期連結貸借対照表 …… 8
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 10
四半期連結損益計算書 …… 10
四半期連結包括利益計算書 …… 11
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 12
（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 13
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 13
（セグメント情報等の注記） …… 13
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 14
（継続企業の前提に関する注記） …… 14
（四半期連結損益計算書に関する注記） …… 15
（重要な後発事象に関する注記） …… 15
３．補足情報 …… 16
（１）地域別売上高 …… 16
（２）在外子会社為替換算レート …… 16
（３）報告セグメント別売上高増減比及びセグメント利益増減比 …… 16
期中レビュー報告書 …… 17

１．経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第３四半期連結累計期間の主要な取組み

「愛知・名古屋2026」が、９月から10月にかけて日本で開催されました。アジア各国・地域を代表するトップアスリートたちがメダル獲得を目指して挑戦する姿は、多くの人々に感動と勇気を与え、スポーツが持つ力を改めて感じる機会となりました。アシックスは、マラソンにおいて30%超、トライアスロンにおいて45%超と、それぞれ着用シェア１位を獲得し、METASPEEDシリーズが躍進しました。さらに、テニスシングルスにおいても45%超で着用シェア１位となり、アシックスが2026年に掲げている「Year of ASIA」の通り、大きな存在感を示すことができました。また、パラ競技を含め、アシックス契約アスリートが活躍し、86個のメダルを獲得しました。女子マラソン、テニスのミックスダブルス、車いすバスケットボール等では金メダルを手にするなど、アジアの舞台で高いパフォーマンスを発揮しました。

さて、当第３四半期連結累計期間の連結売上高は8,051億円（前年同期比＋28.8%）であり、第３四半期累計で売上高が初めて8,000億円を突破しました。営業利益は1,755億円（同＋37.5%）、営業利益率は21.8%（同＋1.4ppt）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,147億円（同＋32.9%）となり、いずれも同期間として過去最高を更新しました。粗利益率は、販売価格の適正化が寄与し、57.4%（同＋0.9ppt）となりました。

また、全カテゴリーで増収増益を達成しました。特にスポーツスタイルは売上高が前年同期比＋70.0%と大幅に成長し、カテゴリー利益率も33.4%（同＋2.8ppt）へ上昇しました。主力商品のGEL-1130、GEL-NYC及びGEL-KAYANO 14等が引き続き好調に推移したことに加え、次の成長ドライバーとしてGEL-CUMULUS 16やGEL-NYC 2.0等が牽引し、大幅な増収となりました。オニツカタイガーも前年同期比＋34.6%の増収となり、力強い成長を継続しました。カテゴリー利益率も高水準を維持し、全社の利益成長を牽引しています。オニツカタイガーは９月に開催されたミラノファッションウィークで「ENERGY STATION」をテーマに2027年春夏コレクションを発表しました。ブランドのアイデンティティーを象徴するフットウエアにおいては、これまで培ってきたヘリテージとクラフトマンシップを現代的にアップデートし、スポーツ、ファッション、ライフスタイルが交差する新たな表現を提案しました。そして、その象徴として新しい「オニツカタイガーストライプ」を初披露し、ブランドのさらなる進化を世界に発信しました。また、９月にはミラノに旗艦店、10月にはソウルに路面店をオープンしました。

地域別で見ても、全地域で増収増益を達成しました。インバウンド需要が引き続き好調なアシックスジャパンでは、売上高が前年同期比＋24.2%となりました。粗利益率も更に良化し、営業利益率は33.0%（同＋3.0ppt）へ上昇しました。欧州では、スポーツスタイル（同＋77.8%）、オニツカタイガー（同＋59.1%）の力強い成長により、売上高は前年同期比＋37.3%、営業利益率は20.1%（同＋1.3ppt）となりました。北米はスポーツスタイル（同＋73.6%）が大幅に伸長したことにより、売上高は前年同期比＋25.5%、営業利益率は19.0%（同＋4.8ppt）と大きく上昇しました。

ランニングエコシステムの取組みも着実に進化しています。８月に開催されたシドニーマラソンでは、昨年に続き、イベントへのエントリーからレース後までのランナージャーニー全体を通じて参加者の目標達成をサポートし、OneASICS会員の獲得およびエンゲージメント向上につなげました。会員のニーズに応じた配信の強化や会員限定特典の拡大を実施した結果、購買ユーザー数は前年の３倍超となり、一人あたりの購買金額もOneASICS会員全体の平均と比較して約30%高い水準となりました。本年はこのモデルを標準フレームワークとして整理し、東京やパリなどの主要大会へ展開しました。今後は地域やレースの特性に応じた柔軟な展開により、さらなる拡大を図ってまいります。

９月には、過去最大規模となる自己株式の取得（上限700億円）及び消却（2,500万株）を発表しました。グローバルの株式市場において業界全体への慎重な見方が広がる中、アシックスの企業価値に対する私たちの考えを明確に示すこと、そして今後も持続的な成長を実現できるという自信を示せたと考えています。今後も資本市場との建設的な対話を重ね、企業価値向上につながる情報開示とIR活動の充実に努めてまいります。

外部評価についてです。公益社団法人日本証券アナリスト協会主催の「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、アシックスが２年連続で小売部門１位に選定されました。特に「経営トップがIR活動を重視し、投資家との対話で得られた意見や知見を経営や情報開示に反映している」「幅広いステークホルダーへの情報開示の充実など、IR活動が継続的に進化している」「説明会での質疑応答の質が高く、解像度の高い情報開示や適時開示に優れている」「リモートツール等を活用した迅速な情報提供に加え、外国人投資家向けの開示が充実している」「インベストメントデイや海外視察ツアー、個人投資家向け体験型IR説明会など、IRイベントを積極的に実施している」といった点をご評価いただきました。
（ディスクロージャー優良企業選定報告書→https://www.saa.or.jp/disclosure/pdf/disclosure_2026.pdf）

なお、11月13日に「中期経営計画2029」を発表しました。詳細は同日開示した適時開示資料をご覧ください。
（アシックスIRサイト→https://corp.asics.com/jp/investor_relations/library/ir_announcements）

私たちだからこそお届けできる価値を磨き、日本発のグローバルブランドを目指して成長するアシックスにぜひご期待ください。

（１）当四半期の経営成績の概況

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間	当第３四半期連結累計期間	増減額（△は減）	増減率（%）	為替影響除く増減率（%）
売上高	625,055	805,154	180,099	28.8	19.2
売上総利益	353,173	462,144	108,970	30.9	21.3
営業利益	127,606	175,502	47,895	37.5	28.2
経常利益	124,500	169,112	44,612	35.8	―
親会社株主に帰属する四半期純利益	86,314	114,745	28,430	32.9	―

① 売上高
全てのカテゴリーで好調に推移し、売上高は805,154百万円と前年同期比28.8%の増収となりました。
② 売上総利益
上記増収の影響により、462,144百万円と前年同期比30.9%の増益となりました。
③ 営業利益
上記増収増益の影響により、175,502百万円と前年同期比37.5%の増益となりました。
④ 経常利益
上記増収増益の影響などにより、経常利益は169,112百万円と前年同期比35.8%の増益となりました。
⑤ 親会社株主に帰属する四半期純利益
上記増収増益の影響などにより、114,745百万円と前年同期比32.9%の増益となりました。

カテゴリー別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、当第３四半期連結累計期間より、カテゴリー名称の一部を見直し、従来「アパレル・エクィップメント」としていたカテゴリーについては、「アパレル」に名称変更しております。

また、従来非開示としておりました「ウォーキング」は、情報開示の透明性向上を目的とし、当第３四半期連結累計期間より独立したカテゴリーとして掲記しております。

（単位：百万円）

カテゴリー名称		前第３四半期連結累計期間	当第３四半期連結累計期間	増減額（△は減）	増減率（%）	為替影響除く増減率（%）
パフォーマンスランニング	売上高	284,305	329,323	45,018	15.8	6.0
	カテゴリー利益	72,517	84,470	11,952	16.5	8.2
コアパフォーマンススポーツ	売上高	69,606	84,867	15,261	21.9	13.5
	カテゴリー利益	15,372	20,105	4,733	30.8	22.6
アパレル	売上高	32,243	42,044	9,801	30.4	20.3
	カテゴリー利益	5,511	8,320	2,808	51.0	38.5
スポーツスタイル	売上高	109,044	185,368	76,323	70.0	55.2
	カテゴリー利益	33,333	61,961	28,627	85.9	72.3
オニツカタイガー	売上高	99,876	134,474	34,598	34.6	28.4
	カテゴリー利益	39,363	53,031	13,667	34.7	30.3
ウォーキング	売上高	11,735	12,698	963	8.2	8.2
	カテゴリー利益	970	2,018	1,047	108.0	107.7

① パフォーマンスランニング

売上高は、主に欧州地域をはじめとする全ての地域で好調に推移し、329,323百万円と前年同期比15.8%の増収となりました。

カテゴリー利益につきましては、上記増収の影響などにより、84,470百万円と前年同期比16.5%の増益となりました。

② コアパフォーマンススポーツ

売上高は、中華圏地域及び東南・南アジア地域を中心に全ての地域で好調に推移し、84,867百万円と前年同期比21.9%の増収となりました。

カテゴリー利益につきましては、上記増収の影響などにより、20,105百万円と前年同期比30.8%の増益となりました。

③ アパレル

売上高は、主に欧州地域をはじめとする全ての地域で好調に推移し、42,044百万円と前年同期比30.4%の増収となりました。

カテゴリー利益につきましては、上記増収の影響などにより、8,320百万円と前年同期比51.0%の増益となりました。

④ スポーツスタイル

売上高は、北米地域及び欧州地域を中心に全ての地域で好調に推移し、185,368百万円と前年同期比70.0%の増収となりました。

カテゴリー利益につきましては、上記増収の影響により、61,961百万円と前年同期比85.9%の増益となりました。

⑤ オニツカタイガー

売上高は、インバウンド需要の拡大を背景とした日本地域での好調な販売に加え、全ての地域で好調に推移し、134,474百万円と前年同期比34.6%の増収となりました。

カテゴリー利益につきましては、上記増収の影響などにより、53,031百万円と前年同期比34.7%の増益となりました。

⑥ ウォーキング

売上高は、主に日本地域で好調に推移し、12,698百万円と前年同期比8.2%の増収となりました。

カテゴリー利益につきましては、上記増収の影響や粗利益率の改善などにより、2,018百万円と前年同期比108.0%の大幅増益となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメント名称		前第３四半期連結累計期間	当第３四半期連結累計期間	増減額（△は減）	増減率（%）	為替影響除く増減率（%）
日本地域	売上高	152,095	156,864	4,769	3.1	－
	セグメント利益	33,544	43,140	9,596	28.6	－
北米地域	売上高	112,473	141,167	28,693	25.5	17.0
	セグメント利益	15,933	26,848	10,914	68.5	57.8
欧州地域	売上高	178,934	245,657	66,722	37.3	24.2
	セグメント利益	33,680	49,388	15,707	46.6	32.1
中華圏地域	売上高	92,965	119,149	26,183	28.2	15.1
	セグメント利益	22,442	28,012	5,570	24.8	12.6
オセアニア地域	売上高	34,662	46,071	11,408	32.9	13.8
	セグメント利益	5,358	6,946	1,587	29.6	10.3
東南・南アジア地域	売上高	38,301	49,444	11,142	29.1	22.5
	セグメント利益	9,356	12,005	2,648	28.3	20.8
その他地域	売上高	39,289	50,172	10,883	27.7	14.5
	セグメント利益	6,936	8,427	1,490	21.5	10.4

① 日本地域

売上高は、オニツカタイガーをはじめとする全てのカテゴリーが好調だったことにより、156,864百万円と前年同期比3.1%の増収となりました。

セグメント利益につきましては、上記増収の影響や粗利益率の改善などにより、43,140百万円と前年同期比28.6%の増益となりました。

② 北米地域

売上高は、スポーツスタイルをはじめとする全てのカテゴリーが好調だったことにより、141,167百万円と前年同期比25.5%の増収となりました。

セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、26,848百万円と前年同期比68.5%の増益となりました。

③ 欧州地域

売上高は、スポーツスタイルをはじめとする全てのカテゴリーが好調だったことにより、245,657百万円と前年同期比37.3%の増収となりました。

セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、49,388百万円と前年同期比46.6%の増益となりました。

④ 中華圏地域

売上高は、スポーツスタイルやオニツカタイガーを中心に全てのカテゴリーが好調だったことにより、119,149百万円と前年同期比28.2%の増収となりました。

セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、28,012百万円と前年同期比24.8%の増益となりました。

⑤ オセアニア地域

売上高は、パフォーマンスランニングやスポーツスタイルを中心に全てのカテゴリーが好調だったことにより、46,071百万円と前年同期比32.9%の増収となりました。

セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、6,946百万円と前年同期比29.6%の増益となりました。

⑥ 東南・南アジア地域

売上高は、パフォーマンスランニングをはじめとする全てのカテゴリーが好調だったことにより、49,444百万円と前年同期比29.1%の増収となりました。

セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、12,005百万円と前年同期比28.3%の増益となりました。

⑦ その他地域

売上高は、パフォーマンスランニングをはじめとする全てのカテゴリーが好調だったことにより、50,172百万円と前年同期比27.7%の増収となりました。

セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、8,427百万円と前年同期比21.5%の増益となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

当第３四半期連結会計期間末の財政状態といたしましては、総資産656,681百万円（前連結会計年度末比12.0%増）、負債の部合計301,793百万円（前連結会計年度末比3.6%減）、純資産の部合計354,887百万円（前連結会計年度末比29.8%増）でした。

① 流動資産

現金及び預金や受取手形及び売掛金の増加などにより、473,732百万円（前連結会計年度末比15.6%増）となりました。

② 固定資産

ソフトウエアの増加などにより、182,948百万円（前連結会計年度末比3.6%増）となりました。

③ 流動負債

買掛金や未払費用の減少などにより、234,673百万円（前連結会計年度末比3.7%減）となりました。

④ 固定負債

リース債務の減少などにより、67,120百万円（前連結会計年度末比3.3%減）となりました。

⑤ 純資産

利益剰余金の増加などにより、354,887百万円（前連結会計年度末比29.8%増）となりました。

また、キャッシュ・フローにおきましては、当第３四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、145,500百万円と前連結会計年度末比33,278百万円増加しました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は116,990百万円となり、前年同期間に比べ30,200百万円の収入増加となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益158,338百万円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額48,917百万円であります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は25,121百万円となり、前年同期間に比べ6,017百万円の支出増加となりました。

支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出12,221百万円、無形固定資産の取得による支出10,286百万円であります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は57,839百万円となり、前年同期間に比べ16,243百万円の支出減少となりました。

支出の主な内訳は、配当金の支払額25,511百万円、自己株式の取得による支出17,003百万円であります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期通期連結業績予想につきましては、2026年８月14日に「2026年12月期通期連結業績予想の修正及び剰余金の配当（中間配当）ならびに期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	112,267	145,534
受取手形及び売掛金	82,956	120,731
電子記録債権	5,847	5,830
商品及び製品	174,372	153,598
仕掛品	1,011	1,079
原材料及び貯蔵品	3,584	3,506
その他	33,747	47,298
貸倒引当金	△3,853	△3,847
流動資産合計	409,933	473,732
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	37,445	37,374
減価償却累計額	△24,124	△23,671
建物及び構築物（純額）	13,320	13,703
機械装置及び運搬具	17,849	17,884
減価償却累計額	△5,575	△6,565
機械装置及び運搬具（純額）	12,274	11,318
工具、器具及び備品	44,243	48,479
減価償却累計額	△32,336	△34,831
工具、器具及び備品（純額）	11,906	13,648
土地	4,859	4,352
リース資産	1,001	1,358
減価償却累計額	△889	△990
リース資産（純額）	112	367
建設仮勘定	2,214	3,709
有形固定資産合計	44,688	47,100
無形固定資産		
のれん	5,716	6,881
ソフトウエア	35,529	39,705
使用権資産	52,761	50,455
その他	9,962	5,573
無形固定資産合計	103,969	102,615
投資その他の資産		
投資有価証券	3,707	4,453
長期貸付金	18	9
繰延税金資産	8,757	8,859
その他	15,781	20,287
貸倒引当金	△376	△378
投資その他の資産合計	27,889	33,232
固定資産合計	176,546	182,948
資産合計	586,480	656,681

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	71,835	60,735
電子記録債務	1,834	2,054
短期借入金	2,500	―
１年内償還予定の社債	25,000	25,000
リース債務	16,000	16,250
未払費用	49,375	38,350
未払法人税等	26,990	25,339
未払消費税等	3,002	5,705
賞与引当金	2,263	12,317
その他	44,924	48,919
流動負債合計	243,726	234,673
固定負債		
社債	10,000	10,000
リース債務	45,029	42,468
繰延税金負債	1,047	2,454
退職給付に係る負債	5,120	5,035
その他	8,200	7,162
固定負債合計	69,399	67,120
負債合計	313,125	301,793
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,972	23,972
資本剰余金	13,655	13,655
利益剰余金	246,352	274,268
自己株式	△57,651	△11,981
株主資本合計	226,328	299,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	303	351
繰延ヘッジ損益	874	8,167
為替換算調整勘定	44,698	45,415
退職給付に係る調整累計額	△686	△662
その他の包括利益累計額合計	45,189	53,272
新株予約権	242	223
非支配株主持分	1,594	1,476
純資産合計	273,355	354,887
負債純資産合計	586,480	656,681

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	625,055	805,154
売上原価	271,882	343,010
売上総利益	353,173	462,144
販売費及び一般管理費	※ 225,566	※ 286,641
営業利益	127,606	175,502
営業外収益		
受取利息	2,101	2,844
受取配当金	3	109
債務免除益	417	－
その他	786	585
営業外収益合計	3,309	3,540
営業外費用		
支払利息	3,713	4,458
為替差損	151	2,011
海外事業関連損失	1,117	2,558
その他	1,432	901
営業外費用合計	6,415	9,929
経常利益	124,500	169,112
特別利益		
固定資産売却益	2,306	3,153
特別利益合計	2,306	3,153
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	189	46
投資有価証券売却損	－	21
投資有価証券評価損	63	0
減損損失	－	4,663
子会社清算損	－	1,953
割増退職金	－	272
賃貸借契約解約損	15	89
転身支援等費用	－	6,776
退職給付制度終了損	－	102
特別損失合計	268	13,926
税金等調整前四半期純利益	126,538	158,338
法人税等	40,166	43,557
四半期純利益	86,371	114,781
非支配株主に帰属する四半期純利益	56	35
親会社株主に帰属する四半期純利益	86,314	114,745

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	86,371	114,781
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△78	48
繰延ヘッジ損益	△16,341	7,293
為替換算調整勘定	4,040	717
退職給付に係る調整額	92	24
その他の包括利益合計	△12,286	8,083
四半期包括利益	74,084	122,864
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	74,028	122,828
非支配株主に係る四半期包括利益	56	35

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	126,538	158,338
減価償却費	17,725	24,095
減損損失	－	4,663
のれん償却額	486	584
貸倒引当金の増減額（△は減少）	281	△40
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△108	△46
賞与引当金の増減額（△は減少）	7,486	10,043
投資有価証券評価損益（△は益）	63	0
投資有価証券売却損益（△は益）	－	21
受取利息及び受取配当金	△2,105	△2,954
支払利息	3,713	4,458
為替差損益（△は益）	4	2
固定資産除売却損益（△は益）	△2,116	△3,106
その他の損益（△は益）	3,996	1,394
売上債権の増減額（△は増加）	△32,071	△37,789
棚卸資産の増減額（△は増加）	△729	21,220
その他の資産の増減額（△は増加）	△2,152	△2,957
仕入債務の増減額（△は減少）	△5,862	△11,498
未払消費税等の増減額（△は減少）	2,173	2,741
その他の負債の増減額（△は減少）	△3,745	△1,835
小計	113,577	167,336
利息及び配当金の受取額	2,145	2,953
利息の支払額	△3,728	△4,381
法人税等の支払額	△25,204	△48,917
営業活動によるキャッシュ・フロー	86,789	116,990
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1	－
定期預金の払戻による収入	1	9
有形固定資産の取得による支出	△10,724	△12,221
有形固定資産の除却による支出	△119	△92
有形固定資産の売却による収入	3,597	5,918
無形固定資産の取得による支出	△9,878	△10,286
投資有価証券の取得による支出	△151	△63
投資有価証券の売却及び償還による収入	－	0
投資事業組合からの分配による収入	－	155
関係会社株式の取得による支出	－	△751
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	－	△1,685
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	422	－
短期貸付金の純増減額（△は増加）	△2	△3,033
長期貸付けによる支出	△2	－
長期貸付金の回収による収入	6	7
投資その他の資産の増減額（△は増加）	△2,251	△3,078
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,103	△25,121
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	－	△2,500
長期借入金の返済による支出	△2,500	－
社債の償還による支出	△25,000	－
自己株式の取得による支出	△20,003	△17,003
自己株式の売却による収入	7	0
リース債務の返済による支出	△10,667	△12,671
配当金の支払額	△15,754	△25,511
非支配株主への配当金の支払額	△164	△153
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74,082	△57,839
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,368	△750
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,027	33,278
現金及び現金同等物の期首残高	126,973	112,221
現金及び現金同等物の四半期末残高	123,945	145,500

（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用につきましては、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

１．報告セグメントの概要

アシックスグループの報告セグメントは、アシックスグループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営会議が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

アシックスは、グローバル本社として主に経営管理及び商品開発を行っております。

アシックスグループは、主にスポーツ用品などを製造販売しており、国内においてはアシックスジャパン株式会社及びその他の国内法人が、海外においては北米、欧州・中東・アフリカ、中華圏、オセアニア、東南・南アジアの各地域を、アシックスアメリカコーポレーション、アシックスヨーロッパB.V.、亞瑟士（中国）商貿有限公司、アシックスオセアニアPTY.LTD.及びアシックスアジアPTE.LTD.等が、それぞれ担当しております。

２．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント								その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域	計				
売上高												
(1) 外部顧客への売上高	117,495	112,473	178,934	92,755	34,662	38,301	39,288	613,913	11,016	624,929	126	625,055
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	34,599	－	－	209	－	0	0	34,809	－	34,809	△34,809	－
計	152,095	112,473	178,934	92,965	34,662	38,301	39,289	648,722	11,016	659,738	△34,683	625,055
セグメント利益又は損失	33,544	15,933	33,680	22,442	5,358	9,356	6,936	127,252	△770	126,482	1,123	127,606

（注）１．「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである、ランニングサービス事業及びスポーツ施設運営事業であります。

２．(1) セグメント売上高の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の売上高を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものです。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の利益又は損失を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものです。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント								その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域	計				
売上高												
(1) 外部顧客への売上高	140,984	141,167	245,657	119,143	46,071	49,444	50,170	792,639	12,465	805,104	50	805,154
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	15,880	－	－	5	－	－	1	15,887	－	15,887	△15,887	－
計	156,864	141,167	245,657	119,149	46,071	49,444	50,172	808,526	12,465	820,992	△15,837	805,154
セグメント利益又は損失	43,140	26,848	49,388	28,012	6,946	12,005	8,427	174,769	△401	174,367	1,134	175,502

（注）１．「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである、ランニングサービス事業及びスポーツ施設運営事業であります。

２．(1) セグメント売上高の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の売上高を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものです。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の利益又は損失を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものです。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

（自己株式の取得）

アシックスは、会社法第459条第１項第１号及びアシックス定款第39条の規定に基づき、2026年９月９日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、自己株式4,199,400株の取得を行いました。この自己株式の取得により、当第３四半期連結累計期間において自己株式が16,999百万円増加しております。

（自己株式の消却）

アシックスは、会社法第178条の規定に基づき、2026年９月９日開催の取締役会において自己株式の消却を決議し、2026年９月30日付で自己株式25,000,000株の消却を実施いたしました。これにより、資本剰余金が421百万円、利益剰余金が61,589百万円、自己株式が62,011百万円それぞれ減少しております。

（剰余金の配当）

アシックスは、2026年３月25日開催の定時株主総会において剰余金の配当を決議し、11,338百万円の剰余金の配当を行っております。また、2026年８月14日開催の取締役会において剰余金の配当を決議し、14,178百万円の剰余金の配当を行っております。

これらの結果などにより、当第３四半期連結会計期間末において、資本剰余金は13,655百万円、利益剰余金は274,268百万円、自己株式が11,981百万円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書に関する注記）

※　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
荷造運搬費	21,792百万円	28,925百万円
広告宣伝費	42,584百万円	55,600百万円
支払手数料	40,849百万円	53,725百万円
貸倒引当金繰入額	214百万円	190百万円
従業員賃金給料	42,820百万円	49,804百万円
賞与引当金繰入額	9,289百万円	11,888百万円
退職給付費用	951百万円	906百万円
賃借料	11,304百万円	12,620百万円
減価償却費	17,493百万円	23,811百万円

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

３．補足情報

（１）地域別売上高

前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

（単位：百万円）

日本	北米	欧州	中華圏	その他	計
118,733	115,564	166,726	92,769	131,261	625,055

（注）１．売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。
２．北米のうち米国は96,092百万円、中華圏のうち中国は76,278百万円となります。

当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

（単位：百万円）

日本	北米	欧州	中華圏	その他	計
147,837	145,002	223,017	119,156	170,140	805,154

（注）１．売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。
２．北米のうち米国は120,327百万円、中華圏のうち中国は98,913百万円となります。

（２）在外子会社為替換算レート

	USD	EUR	RMB	AUD	SGD
2025年12月期第３四半期　（円）	148.76	165.49	20.61	95.03	113.20
2026年12月期第３四半期　（円）	158.47	183.92	23.20	110.99	123.86
増減　（円）	9.71	18.43	2.59	15.96	10.66
増減比　（%）	6.5	11.1	12.6	16.8	9.4

（注）上記にて在外子会社の損益計算書を換算しております。

（３）報告セグメント別売上高増減比及びセグメント利益増減比

		日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域
売上高増減比　（%）	(外貨)	－	17.0	24.2	15.1	13.8	22.5	14.5
	(邦貨)	3.1	25.5	37.3	28.2	32.9	29.1	27.7
セグメント利益増減比　（%）	(外貨)	－	57.8	32.1	12.6	10.3	20.8	10.4
	(邦貨)	28.6	68.5	46.6	24.8	29.6	28.3	21.5

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

２０２６年１１月１３日

株式会社アシックス
　取締役会　御中

EY新日本有限責任監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　笹山　直孝

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　徳野　大二

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社アシックスの２０２６年１月１日から２０２６年１２月３１日までの連結会計年度の第３四半期連結会計期間（２０２６年７月１日から２０２６年９月３０日まで）及び第３四半期連結累計期間（２０２６年１月１日から２０２６年９月３０日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第４条第１項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第４条第２項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第４条第１項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第４条第２項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第４条第１項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第４条第２項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・　主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
・　継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第４条第１項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第４条第２項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
・　四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第４条第１項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第４条第２項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
・　四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
２．XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。